

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践高度化専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	① 教育課程の編成・実施に関する領域 カリキュラム開発の理論と実践A	<p>(概要) 【現職教員用】 近年の教育改革では、特色ある学校づくりが求められるようになってきている。特色ある学校づくりの上で核となるのが、教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。教育課程は、学校教育における最も重要な要素であり、それをどのように編成し、展開していくかが学校教育の主要なテーマである。受講生は、勤務校の実態に即して、そこに抱える問題や課題を明確にし、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティブラーニングによる取組を通して、新しい学校教育の展開と特色あるカリキュラムづくりができるようになることを目指す。</p> <p>「カリキュラム開発の理論と実践B」との一部合同授業</p>	<p>(現職教員学生対象)</p> <p>集中講義</p> <p>アクティブラーニング (AL) の活用</p>
	カリキュラム開発の理論と実践B	<p>(概要) 近年の教育改革では、特色ある学校づくりが求められるようになってきている。特色ある学校づくりの上で核となるのが、教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。受講生は現場経験が無いことから、教育課程の意義、教育課程の基準たる学習指導要領の歴史的変遷について実践的視点からその諸理論を概観し、今日の教育改革や教育課程改革を理解するとともに、その問題や課題を把握し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティブラーニングによる取組を通して、新しい学校教育の展開と特色あるカリキュラムづくりができるようになることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (關浩和/7回) カリキュラム改革の歴史的変遷について、近代以降の改革の経緯を取り上げる。さらに学習指導要領の変遷と理念について、経験主義・系統主義・ゆとり教育・PISA型学力などをキーワードとして検討する。 (前原隆志/8回) 前半では、学校現場における教育課程の意義やカリキュラム編成の実態等について、グループワークやディスカッションを通して課題意識を高める。後半では、学校における特色あるカリキュラム開発について、グループによる追究活動を行い、その成果をプレゼンテーションする。</p> <p>「カリキュラム開発の理論と実践A」との一部合同授業</p>	<p>(現職教員以外の学生対象)</p> <p>オムニバス方式</p> <p>一部集中講義</p> <p>アクティブラーニング (AL) の活用</p>
共通科目	② 教科等の実践的な指導方法に関する領域 教科カリキュラム開発、授業デザインと評価A	<p>(概要) 学校教育目標や人材育成目標、学校・学年・学級に在籍する児童生徒の実態、他教科とのバランス等の要素を考慮した教科カリキュラムの開発が児童生徒の学習力を高めるための最適な授業計画の構築につながることを再認識し、授業設計力を磨く。そのために、各学習分野及び領域のカリキュラムの特性と子どもの育成に係る学習全体との関連性を明確につかむための演習を重ねる。並行して、担当教科もしくは総合学習等のカリキュラムを立案し、授業を構想することで現場での実践に生かしていく。</p> <p>(前田昌平, 栗田克弘)</p> <p>「教科カリキュラム開発、授業デザインと評価B」との一部合同授業</p>	<p>(現職教員学生対象)</p> <p>共同</p> <p>アクティブラーニング (AL) の活用</p>
	教科カリキュラム開発、授業デザインと評価B	<p>(概要) 教育現場における授業実践を通して、教科カリキュラムの概要やその構想について理解する。特に、各学習分野及び領域のカリキュラムには特性があり、それが学校での学習全体に係る内容や方法と密接に関連していることを理解する。併せて、一時間の授業が単元指導計画や学年や学校教科指導計画とどのように関連づけられているか理解する。さらに教科カリキュラムを受けて一時間の授業デザインが行われていることを理解し、適切な学習指導の基礎を理論的にも実践的にも理解することを目指す。</p> <p>(栗田克弘, 前田昌平)</p> <p>「教科カリキュラム開発、授業デザインと評価A」との一部合同授業</p>	<p>(現職教員以外の学生対象)</p> <p>共同</p> <p>アクティブラーニング (AL) の活用</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通科目	知識基盤社会における情報活用の理論と実践A	<p>(概要) 本授業では、新しい時代に求められる能力と教育の情報化、授業・学習における学習者支援・教員支援としてのICT活用、情報活用能力の育成、校務の情報化、学校の情報化に対するマネジメント体制の5つの観点において講義、演習、事例協議、先進校視察等を通して、学校のICT化ビジョンを構築し実行できるための基礎的な力を身に付けることを目指す。授業形態として、「知識基盤社会における情報活用の理論と実践B」との共同授業、課題→演習→発表、視察→協議、講義→事例協議等、受講者が主体的に参画できる方法で実施する。</p> <p>(鷹岡亮, 栗田克弘)</p> <p>「知識基盤社会における情報活用の理論と実践B」との一部合同授業</p>	<p>(現職教員学生対象)</p> <p>共同</p> <p>アクティブラーニング (AL) の活用</p>	
	知識基盤社会における情報活用の理論と実践B	<p>(概要) 本授業では、新しい時代に求められる能力と教育の情報化、分かる授業のためのICT活用、情報活用能力やICTを活用した学び方の育成、情報モラル教育の推進、校内研修プランの作成・実施の5つの観点において講義、演習、発表、事例協議、先進校視察等を通して、学校の情報化推進リーダーを担当できるための基礎的な力を身に付けることを目指す。授業形態として、「知識基盤社会における情報活用の理論と実践A」との共同授業、課題→演習→発表 (レポート)、視察→協議、講義→事例協議等、受講者が主体的に参画できる方法で実施する。</p> <p>(栗田克弘, 鷹岡亮)</p> <p>「知識基盤社会における情報活用の理論と実践A」との一部合同授業</p>	<p>(現職教員以外の学生対象)</p> <p>共同</p> <p>アクティブラーニング (AL) の活用</p>	
共通科目	③ 生徒指導、教育相談に関する領域	教育相談・特別支援教育の理論と実践A	<p>(概要) 本授業では、教育相談の理論と実践については、児童・生徒の心の変化を踏まえた新型不登校型への対応、心理アセスメントにおける教員のできるアセスメントと支援のあり方、学校教育相談体制と構造、気になるサインの多様なとらえ方、保護者への柔軟な対応、発達障害者における受容と変化のバランスについて、さらには特別支援教育の理論と実践等については、時代の要請に応じた内容を、学校を営む立場から理解していく。特に、教育相談体制作りの中で教育相談係やスクールカウンセラーを活用する観点も含めて探っていく。</p> <p>(田邊敏明, 木谷秀勝)</p> <p>「教育相談・特別支援教育の理論と実践B」との一部合同授業</p>	<p>(現職教員学生対象)</p> <p>共同</p> <p>アクティブラーニング (AL) の活用</p>
		教育相談・特別支援教育の理論と実践B	<p>(概要) 授業では、教育相談の理論と実践については、児童・生徒の心の変化を踏まえた新型不登校型への対応、心理アセスメントにおける教員のできるアセスメントと支援のあり方、学校教育相談体制と構造、気になるサインの多様なとらえ方、保護者への対応の柔軟な姿勢、発達障害者における受容と変化のバランス等について、さらには特別支援教育の理論と実践等については、時代の要請に応じた内容を、教員の立場から理解していく。特に、教育相談活動の中で、スクールカウンセラーや教育相談係との連携・協働の観点も入れつつ探っていく。</p> <p>(田邊敏明, 木谷秀勝)</p> <p>「教育相談・特別支援教育の理論と実践A」との一部合同授業</p>	<p>(現職教員以外の学生対象)</p> <p>共同</p> <p>アクティブラーニング (AL) の活用</p>
共通科目	道徳教育の理論と実践A	<p>(概要) 学校における道徳教育が抱える諸問題を取りあげ、受講生間でその実態について情報交換を行い、改善をめざした議論を通して、正しく理解を深める。教材開発では、「体験的活動」、「望ましい人間関係」、「葛藤資料」、「追体験」、「偉人教材 (感動教材)」などに着目し、その特長を検討し整理する。道徳の時間の授業参観等を踏まえ、教材開発にも取り組み、資料の収集、学習指導案の作成、模擬授業を通して、指導に必要な知識や技能を高める。さらに振り返りを介して、新たな課題を見いだせる力量を体得する。</p> <p>「道徳教育の理論と実践B」との一部合同授業</p>	<p>(現職教員学生対象)</p> <p>アクティブラーニング (AL) の活用</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	道徳教育の理論と実践B	(概要) 学校における道徳教育が抱える諸問題を取りあげ、受講生間でその実態について情報交換を行い、改善をめざした議論を通して、正しく理解を深める。教材開発では、「体験的活動」、「望ましい人間関係」、「葛藤資料」、「追体験」、「偉人教材(感動教材)」などに着目し、その特長を検討し整理する。道徳の時間の授業参観を踏まえ、教材開発にも取り組み、資料の収集、学習指導案の作成、模擬授業を通して、指導に必要な知識や技能を体得する。  「道徳教育の理論と実践A」との一部合同授業	(現職教員以外の学生対象)  アクティブラーニング(AL)の活用
共通科目	④ 学級経営・学校経営に関する領域 学校危機管理, リスクマネジメントの理論と実践A	(概要) 学校では教職員の危機管理対応能力を高めるとともに組織全体で危機管理について共有し組織的に対応していくことが求められている。この授業では、学校の危機と危機管理(事前・事後)についてその必要性を理論と事例から研究するとともに、学校での児童生徒への指導や教職員の研修、家庭・地域社会との連携、教育行政や関係機関との連携についての実際やその意義と課題を踏まえ、学校の実効的計画や組織運営のあり方、それぞれの連携のあり方等について管理職としての視点をもって実践的に解明する。  (静屋智, 板垣育生)  「学校危機管理, リスクマネジメントの理論と実践B」との一部合同授業	(現職教員学生対象)  共同  アクティブラーニング(AL)の活用
共通科目	学校危機管理, リスクマネジメントの理論と実践B	(概要) 学校では教職員の危機管理対応能力を高めるとともに組織全体で危機管理について共有し組織的に対応していくことが求められている。この授業では、学校の危機と危機管理(事前・事後)についてその必要性を理論と事例から研究するとともに、学校での児童生徒への指導や教職員の研修、家庭・地域社会との連携、教育行政や関係機関との連携についての実際やその意義と課題を踏まえ、学校の実効的計画や組織運営のあり方、それぞれの連携のあり方等について実践的に解明する。  (板垣育生, 静屋智)  「学校危機管理, リスクマネジメントの理論と実践A」との一部合同授業	(現職教員以外の学生対象)  共同  アクティブラーニング(AL)の活用
共通科目	教育行財政の制度と課題A	(概要) 教育に関する政策がどのようにして決定され実施されているのかについて、教育制度、教育行政の実情、教育内容、学校経営等の点から考察し、学校現場での学校経営課題とどのように関連しているかを研究する。実際の教育委員会の教育施策と学校課題研究校Ⅰ・教育実践協力校における取組の成果や課題を分析・検証する中で、教育行政機関と連動した学校の実効的計画や課題解決に向けた組織運営のあり方、取組の分析・評価のあり方等についてミドルリーダー・管理職としての視点をもって実践的に解明する。  (静屋智, 佐々木司)  「教育行財政の制度と課題B」との一部合同授業	(現職教員学生対象)  共同  アクティブラーニング(AL)の活用
共通科目	教育行財政の制度と課題B	(概要) 教育に関する政策がどのようにして決定され実施されているのかについて、教育制度、教育行政の実情、教育内容、学校経営等の点から考察し、学校現場での学校経営課題とどのように関連しているかを研究する。これらのことを踏まえて、実際の教育委員会の教育施策と学校課題研究校Ⅱにおける取組の成果や課題を考察する中で、教育行政機関と連動した学校の実効的計画や課題解決に向けた組織的取組のあり方、取組の分析・評価のあり方等について実践的に解明する。  (佐々木司, 静屋智)  「教育行財政の制度と課題A」との一部合同授業	(現職教員以外の学生対象)  共同  アクティブラーニング(AL)の活用

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	⑤ 学校教育と教員の在り方に関する領域 山口県教育の現状と課題	(概要) 学校現場が有する教育課題には、いわゆる「地域課題」としてその自治体や地域が深刻に抱えるものがある。この科目では、山口県が抱える現代的教育諸課題の解明に向け、現職教員、教育関係者や教職志望学生等が協働的に学ぶ「ちゃぶ台次世代コーホート」、ミドルリーダー養成プログラム「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course」や「ちゃぶ台理科ネット」等を活用し、大学院教員、学校等教員、教育委員会指導者や多様な教育関係者と連携協働した研修を行う。 その中で、 <u>現職教員院生は、実践事例発表、研究協議（部会）運営や部会における指導助言体験等をおして、実践力・課題解決力の向上やリーダーシップを身につける。学部卒院生（ストレートマスター）は、取り扱う現代的教育課題の実践的理解、課題解決の方途や取組の組み立て等を行うとともに、若手教員としての在り方を解明する。</u>  (霜川正幸, 和泉研二)	共同 集中講義  アクティブラーニング (AL) の活用
共通科目	学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践A	(概要) 学校等教育現場が抱える教育諸課題の多様化、複雑化、高度化が進む中、学校・家庭・地域社会の連携協働に期待が寄せられ、山口県では80%超の学校がコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に指定されている。この授業では、学校・家庭・地域社会の連携の今日的意義と課題、実効的な組織連携や機能連携の方途、学社融合の視点に立った組織運営の在り方等をふまえ、現任教や各地の学校における実践の分析と考察、先進校における実地体験、国や自治体の動向や地域創成にかかる理論研究等をおして今後の学校経営や地域連携等の在り方を解明する。  (霜川正幸, 池田廣司)  「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践B」との一部合同授業	(現職教員学生対象) 共同  アクティブラーニング (AL) の活用
共通科目	学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践B	(概要) 学校等教育現場が抱える教育諸課題の多様化、複雑化、高度化が進む中、学校・家庭・地域社会の連携協働に期待が寄せられ、山口県では80%超の学校がコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に指定されている。この授業では、学校・家庭・地域社会の連携の今日的意義と課題、実効的な組織連携や機能連携の方途、学社融合の視点に立った組織運営の在り方等について、実践事例研究、先進校での実地体験、学校実習校や近接校の学校運営協議会参加等をおして実践的に解明する。  (池田廣司, 霜川正幸)  「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践A」との一部合同授業	(現職教員以外の学生対象) 共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目	授業技術の理論と実践 授業力向上科目群	(概要) 児童生徒の学習意欲を引き出し、学習力を高めていく授業全般に共通する基本的な学習法を探っていく。その際、大事にしたいことは、児童生徒の側に立った授業設計力と授業実践力を身につけることである。そのために、教師の働きかけにより児童生徒の学習力の向上と人間的な成長の事実がはっきりと見える優れた授業実践記録を分析することにより、児童生徒の自主的な探究活動を生み出していく授業者の学習法に学ぶ。それをもとに、学部卒院生（ストレートマスター）は各自の授業を構想し、 <u>模擬授業を実施・検討することで実践的な授業技術を探る。現職学生院生は、自らの授業を振り返り改善につながる授業計画を立案し授業実践する。</u>	共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目	授業実践高度化演習 授業力向上科目群	(概要) 学校教育に現在求められる望ましい教科の授業は、教師の力量に大きく関係している。教材研究及び学習設計における原則的で基本的な内容と方法を、授業実践から導き出すことはその力量の一つである。この授業では、小中学校の優れた授業実践を元に分析し、その視点を明らかにするのが主な内容である。このことは、授業実践において学校内でリーダーシップのとれるようになることにもつながっている。児童生徒との関連をより深め、学校全体をまとめていく教師の資質について理解を深めることにも通じている。  (栗田克弘, 鷹岡亮)	共同  アクティブラーニング (AL) の活用

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職必修選択科目 授業力向上科目群	授業内容構成特論	<p>(概要) 授業内容の構成及び教材研究における原則的で基本的な事項と方法について習得することが、本授業の大きなねらいである。単元構成や授業目標からどのような教材を選定しどのように活用していくのが適切かを、教材や素材の特性を考慮しながら考察していく。さらに、教材や素材をより高い次元からも検討し、その教育的価値について理解を深めるとともに、授業構成力及び教材研究力の向上を図る。</p> <p>(前田昌平, 岡崎智利, 池田廣司, 霜川正幸, 静屋智, 和泉研二, 鷹岡亮, 栗田克弘, 松岡敬興, 藤上真弓)</p>	共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目 授業力向上科目群	授業デザイン総合演習	<p>(概要) 授業における原則的で基本的な内容と方法について習得することが、本授業の大きなねらいである。小学校や中学校の教科の授業において、授業目標からどのような指導を実践していくのが適切かを、教材の特性や生徒の実態を考慮しながら考察していく。さらに、児童生徒の主体的で協動的な学習を具体的にどのように実践していくことが望ましいのかを考察する。教材研究力との関連をはかり、総合的な授業実践力の向上を目指す。</p> <p>(前田昌平, 岡崎智利, 池田廣司, 霜川正幸, 静屋智, 和泉研二, 鷹岡亮, 栗田克弘, 松岡敬興, 藤上真弓)</p>	共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目 授業力向上科目群	現代的課題と授業改善の実践Ⅰ	<p>(概要) 本授業では、学習指導、授業づくりに関する創造的開発力、実践的指導力の向上を図るため、教科や領域の先進実践に学ぶとともに、ICT、人権教育、外国語(英語)活動や国際理解・多文化共生教育等、今後一層の指導方法の工夫改善が求められる領域に関する実践研究を行う。そこで、附属学校(園)や県・市町研究開発(指定)校等の教育実践を積極的に導入する。なお、附属学校(園)、研究開発(指定)校の研究発表大会日程等に応じて授業計画を編成し、随時開講形式で実施する。</p> <p>その中で、<u>現職教員院生は、実践事例研究における発表、研究協議運営(進行管理)や指導助言体験等をおして、実践力・課題解決力の向上やリーダーシップを身につける。学部卒院生(ストレートマスター)は、取り扱う現代的教育課題の実践的理解、課題解決の方途や取組の組み立て等を行うとともに、若手教員としての在り方を解明する。</u></p> <p>(前田昌平, 板垣育生, 池田廣司, 霜川正幸, 静屋智, 和泉研二, 鷹岡亮, 栗田克弘, 松岡敬興, 藤上真弓)</p>	共同
教職必修選択科目 授業力向上科目群	現代的課題と授業改善の実践Ⅱ	<p>(概要) 本授業では「現代的課題と授業改善の実践Ⅰ」を発展させ、小規模・複式の授業や特色ある指導案作成等山口県内の学校が抱える学習指導、授業づくりに関する諸課題や特色を取りあげ実践研究を行う。附属学校(園)、やまぐち総合教育支援センターや教育委員会研修部局との連携を図りながら授業の質を高める。なお、やまぐち総合教育支援センターが地域の教育諸課題(学習指導等)に焦点をあて開催する「やまぐち教育フォーラム」や附属学校(園)研究発表大会日程等に応じて授業計画を編成し、随時開講形式で実施する。</p> <p>その中で、<u>現職教員院生は、実践事例研究における発表、研究協議運営(進行管理)や指導助言体験等をおして、実践力・課題解決力の向上やリーダーシップを身につける。学部卒院生(ストレートマスター)は、取り扱う山口県における教育諸課題の実践的理解、課題解決の方途や取組の組み立て等を行うとともに、若手教員としての在り方を解明する。</u></p> <p>(前田昌平, 板垣育生, 池田廣司, 霜川正幸, 静屋智, 和泉研二, 鷹岡亮, 栗田克弘, 松岡敬興, 藤上真弓)</p>	共同
教職必修選択科目 生徒指導力向上科目群	生徒指導の実践と課題	<p>(概要) 生徒指導の充実にあたっては、生徒指導の今日的意義、山口県内学校等に見られる児童生徒の健全育成上の課題、生徒指導・生徒理解の方法や学校外関係機関・団体等との連携協力の在り方等に関する理解や実践的力量を高める必要がある。この科目では、いじめ、不登校、暴力や様々な少年非行、問題行動等の教育課題の解決と児童生徒の健全育成に向けて、生徒指導の役割、課題等を明らかにするとともに、全校体制による指導、広域連携の視点にたった指導の在り方について解明する。</p> <p>その中で、<u>現職教員院生は、実践事例研究における発表、研究協議運営(進行管理)や指導助言体験等をおして、実践力・課題解決力の向上やリーダーシップを身につける。学部卒院生(ストレートマスター)は、生徒指導事例の実践的理解、課題解決の方途や具体的な取組の組み立て等を行うとともに、若手教員、中堅教員としての在り方を解明する。</u></p> <p>(松岡敬興, 板垣育生)</p>	共同  アクティブラーニング (AL) の活用

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職必修選択科目	生徒指導力向上科目群 スクールカウンセリングの実践と課題	(概要) スクールカウンセラーの学校教員とは異なる役割を明らかにしていく。スクールカウンセラーの活動は、そのガイドラインを軸にして、学校のニーズをくみ取り、家庭や外部機関との連携も視野に入れた、柔軟で幅広い活動として捉える。不登校の見立て、発達障害への支援、いじめへの対応等について、スクールカウンセラーならではの視点と対応方法を見いだしていく。 <u>現職教員院生は、教育相談担当やスクールカウンセラーの役割を理解した上で、こどもへの支援や保護者への支援の中でスクールカウンセラーの活用を考えていき、学部卒院生は、主にクラス運営の中の友人関係を中心とした児童・生徒の心の理解、および保護者の心の理解について、スクールカウンセラーとの連携・協働を考えていく。</u>	アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目	生徒指導力向上科目群 学校不適応・問題行動等事例研究	(概要) 学校が現在において直面している対応困難な事例を取り上げて、その支援のあり方を探っていく。各事例においては、本人の性格、家庭、学校等の要因が複雑に絡んでいる。学校不適応の場合には、親子の愛着関係に問題がある場合と子どもが教員や友人を含む学校との関係に困難を感じる場合では、支援のあり方が異なることを理解する。親子の愛着を重視した対応と学校とのつながりを重視する対応のバランスを考えた見立てと支援を考えていく。問題行動の場合には、幅広い視野をもって多角的に検討し、かつ具体的で効果的な対応について探っていく。 <u>現職教員院生においては、学校管理者の立場から、子どもの不適応や問題行動対応での教員同士の連携やスクールカウンセラーの活用を視野に入れた事例への適切な見立てと効果的な対応を考えるようにする。学部卒院生においては、クラス運営を中心にする観点から、友人問題を中心とした子どもの心の理解および家庭背景を考慮した保護者の心の理解を念頭に、事例への適切な見立てと効果的な対応を考えていく。</u>	共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目	生徒指導力向上科目群 キャリア教育実践演習	(概要) 人間のキャリア発達と教育の関係について学び、小学校・中学校・高等学校の実践事例やワークショップなどに基づき、人間にとって学ぶことや働くことの意味や価値について見つめ直し、人としての在り方・生き方に影響を及ぼすキャリア教育の重要性について再認識を促す。その中で、キャリア教育に必要な視点や方法、考えについて学び、児童・生徒の発達段階や一人一人に応じたキャリア教育を推進していく方途について考察する。 <u>現職教員院生は、事例検討発表、キャリアプログラム検討やグループワーク等における指導助言を通して、教職員の同僚性を高めたり、関係機関との連携をとったりしながら、キャリア教育の充実を図っていくための方途を探り、スクールリーダーやミドルリーダーとして必要な実践力を身につける。学部卒院生 (ストレートマスター) は、キャリア教育を充実させる方途について実践的に理解するとともに、今後の若手教員としての自己のキャリア発達の在り方について考察する。</u>	共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目	生徒指導力向上科目群 特別活動の実践と課題	(概要) 特別活動における諸問題を明らかにし、学級や学校の支持的な風土を醸成し、児童・生徒の自治能力や人間関係調整力等を高めていくための授業や活動等の指導過程を具体的に構想・開発し、実践に向けた力量の形成を図ったり、指導的役割を果たすために必要な知識・技能の習得を図る。そして、開発したプログラムが、児童・生徒の自治能力や人間関係調整力等を育成する授業や活動等として効果的かどうかを検証し、討論していくことで、改善の方向性を見いだす。 <u>現職教員院生は、事例検討発表、実践プログラム検討や事例検討等、グループワークにおける指導助言を通して、教職員の同僚性を高めながら特別活動の充実を図っていくための方途を探り、スクールリーダーやミドルリーダーとして必要な実践力を身につける。学部卒院生 (ストレートマスター) は、特別活動を充実させる方途について実践的に理解するとともに、今後の若手教員としての在り方について解明する。</u>	共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目	学校経営力向上科目群 学校関係法令の適用と課題	(概要) スクール・コンプライアンスの担い手として具体的問題事例について法的に考え、分析し、解決に導くことができる能力の獲得を目指す。まず、近年の法制度改革の動向を踏まえたうえで、学校関係法令の内容や構造を理解する。次いで教育委員会等との連携をはかるなかで、教員が学んでおいてほしい具体的事例を用意し、受講生の問題意識等を踏まえた演習形式の授業を行う。以上を踏まえて成果発表会を開き、各自の抱える問題等に法令の面からアプローチし、解決・改善策を探る。	アクティブラーニング (AL) の活用

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職必修選択科目 学校経営力向上科目群	学校評価と学校改善	(概要) 学校評価の導入経緯や学校改善の基礎理論を踏まえたうえで評価や改善の具体的事例を学び、評価から改善へと組織変革するための手法や視点を獲得していく。まず学校評価や学校改善の意義や背景等を学ぶとともに、21世紀型スキルやコンピテンシーとその背景について習得する。さらにケーススタディを重ね、学校における評価の手法と学校改善への具体的な取り組み方を体得していく。以上を踏まえ、評価と改善の理論と実践に関する成果発表会を開催する。  (佐々木司, 板垣育生)	共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目 学校経営力向上科目群	教育の制度と政策	(概要) 教育政策の今日の動向を学び、各施策や事業の目的や内容、課題等を理解するとともに、我が国や諸外国、県、市町村レベルにおける政策・施策を比較考察しながら、勤務地等のそれに応用する力量を形成していく。まず講義によって、学校を中心とする教育制度の歴史の変遷を学び、次いで中央教育審議会の答申や『我が国の文教施策』、『文部科学白書』などを利用しつつ、国レベルの教育施策の動向を理解する。以上を踏まえ受講生自身が制度改革案、政策提言案を作成したのち、発表し合い、相互に検討・改善していく。  (佐々木司, 静屋智)	共同
教職必修選択科目 学校経営力向上科目群	学校経営と組織開発	(概要) 学校経営および組織マネジメントの理論、学校経営および教育行政をめぐる近年の国内動向、世界の教育改革動向を習得し、学校内外における具体的な事例をテーマに実践的な課題解決のための力量を形成する。学校経営と組織開発について、授業の前半は理論や国内外の動向を学ぶ。後半は、学校内外の具体的な事例をテーマに、学校経営の実際を学ぶ。前半・後半に各1回ずつ「学校組織マネジメントに向けた開発プランづくり」を課し、アドバイスを受けながら、組織開発の能動的な担い手としてのスキルアップを目指す。  (佐々木司, 池田廣司)	共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目 学校経営力向上科目群	教育行政インターンシップ	(概要) 教育行政においては、それぞれの施策が学校の取組と連動することが不可欠である。実際の教育行政機関でのインターンシップをとおして、教育行政に必要な視点を探るとともに、教育行政職員として必要な資質能力、教育施策の策定の意味、期待される効果、成果の検証方法等について研究する。また、教育行政の施策と学校現場での学校経営課題との関連についての研究を踏まえて、教育行政機関と連動した学校の実効的計画や課題解決に向けた組織運営のあり方、取組の分析・評価のあり方等について管理職としての視点をもって実践的に解明する。  (板垣育生, 静屋智)	共同 集中講義  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目 学校経営力向上科目群	教職員研修開発実践演習	(概要) 校内研修の事例分析や校内研修を深化・活性化するための講義、演習をもとに、校内研修の意義に対する理解を深めるとともに、抱える課題を把握し、その計画と運営を進めるために必要な専門的知識・技能の修得・形成を図る講義を行う。そして、教員の人材育成と研修に対する理論や方法を、実際の校内研修の計画・運営に反映することができる力量の形成を目指していく。  (藤上真弓, 前原隆志)  「教職員研修開発基礎」との一部合同授業	(学校経営コース用科目) 共同  アクティブラーニング (AL) の活用
教職必修選択科目 学校経営力向上科目群	学級経営の理論と実践	(概要) 児童生徒が主体的に活動できる学級経営のあり方(知識、考え方、構え、ほか)について教示する。学校現場における探求的実践研究(受講者の教育実践とその省察、実践事例研究、先進的な取組に関する学校調査、ほか)を取りあげ、学級経営の現状と課題について、実践と理論の両面から捉え、事象への対応・介入の適切さ・妥当性について議論を深め、より効果的な教育実践を再構築する。  (松岡敬興, 藤上真弓)  「学級経営開発基礎」との一部合同授業	(学校経営コース用科目) 共同  アクティブラーニング (AL) の活用

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職必修選択科目 学校経営力向上科目群	教職員研修開発基礎	(概要) 校内研修の事例分析や校内研修を深化・活性化するための講義、演習をもとに、校内研修の意義に対する理解を深めるとともに、抱える課題を把握し、その計画と運営を進めるために必要な専門的知識・技能の修得・形成を図る講義を行う。そして、教員の人材育成と研修に対する理論や方法を、校内研修の活性化案に反映できるようになるための基礎・基本となる力量の形成を目指していく。  「教職員研修開発実践演習」との一部合同授業	(教育実践開発コース用科目)  アクティブラーニング(AL)の活用
教職必修選択科目 学校経営力向上科目群	学級経営開発基礎	(概要) 学級は学校における児童生徒の基本的活動単位であり、教育の目的や発達段階等に即した組織化・機能的な形成が必要となることから、教員の主体的・創造的指導力に左右される。この授業では、学級経営、学級(集団)づくりの意義、教育法規とコンプライアンス等を再確認するとともに、学校現場での探求的实践研究(学級経営案作成、アクティビティー開発、実践事例研究、先進的取組調査等)等とおして、学級経営の現状や課題を实践と理論の両面からとらえ、若手教員としての実践的指導力を高める。  (藤上真弓、松岡敬興)  「学級経営の理論と実践」との一部合同授業	(教育実践開発コース用科目)  共同  アクティブラーニング(AL)の活用
教職必修選択科目 課題研究省察科目群	教職高度化実践研究Ⅰ	(概要) この授業は、本教職大学院での学習の核となる探究的実践研究(実践と理論を往還するOJD型課題解決プロジェクト研究)を支えるリフレクション科目として開設する。前期の学習の中で明確にしてきた個人の課題意識や学校課題の分析、解決に向けた継続的・探究的な実践研究、大学院教員や教育関係者との省察、他院生との研究協議や研究(途中)発表等を行うことをとおして、自らの実践研究を省察し、今後の展望と研究方針、計画等を明確にする。  (和泉研二、佐々木司、田邊敏明、鷹岡亮、霜川正幸、静屋智、栗田克弘、松岡敬興、藤上真弓、板垣育生、前原隆志、岡崎智利、池田廣司、前田昌平)	共同  アクティブラーニング(AL)の活用
教職必修選択科目 課題研究省察科目群	教職高度化実践研究Ⅱ	(概要) この授業は、本教職大学院での学習の核となる探究的実践研究(実践と理論を往還するOJD型課題解決プロジェクト研究)を総括し、2年間の学びを集大成する科目として開設する。今までの継続的・探究的な実践研究の省察、大学院教員や教育関係者等からの受指導、他院生等との研究協議や研究成果発表等を行うことをとおして、「学校経営コース」、「教育実践開発コース」が求める教員としての資質能力を一層高めていくことを目指す。  (和泉研二、佐々木司、田邊敏明、鷹岡亮、霜川正幸、静屋智、栗田克弘、松岡敬興、藤上真弓、板垣育生、前原隆志、岡崎智利、池田廣司、前田昌平)	共同  アクティブラーニング(AL)の活用
学校実習総合科目	教職総合実践Ⅰ	(概要) (ストレートマスター) 本授業においては、教育現場において体験的に課題を把握することが、主な内容である。学校実習校では、教育現場の様々な活動に積極的に参加し、学校での実際の教育活動はどのようなものであるかを知り、体験を通して課題を意識することになる。 (現職教員学生) 本授業においては、学校の状況を把握し課題を明確にすることが主な内容である。学校の状況を把握するために、学校の特徴を的確にとらえ、学校にはどのような課題が存在するかを洞察できるようになる必要がある。  (霜川正幸、和泉研二、田邊敏明、佐々木司、鷹岡亮、栗田克弘、松岡敬興、藤上真弓、静屋智、板垣育生、池田廣司、前田昌平、岡崎智利、前原隆志)	共同  集中講義



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校実習総合科目	教職総合実践Ⅱ	<p>(概要) (ストレートマスター)</p> <p>本授業においては、教育現場における適切な指導に必要な要件にはどのようなものがあるかを知り、適切な指導を実践していくことが主な内容である。そのために、学校実習校で教育現場の様々な指導に積極的にに関わり、児童生徒にとって適切な指導とはどのようなものかを洞察し、それを実践することになる。 (現職教員学生)</p> <p>本授業においては、学校における現状を分析し課題解決に向けての方策を試行(改善の試行)することが主な内容である。学校の現状を分析するための手立てを施し、改善の試行のために実際にはどのようなことを行えば良いのか見通しを持つことができるようになることである。</p> <p>(霜川正幸, 和泉研二, 田邊敏明, 佐々木司, 鷹岡亮, 栗田克弘, 松岡敬興, 藤上真弓, 静屋智, 板垣育生, 池田廣司, 前田昌平, 岡崎智利, 前原隆志)</p>	共同 集中講義
学校実習総合科目	教職総合実践Ⅲ	<p>(概要) (ストレートマスター)</p> <p>本授業においては、教育現場において、適切な指導の意義を理解し、質の高い指導力を実践することが主な内容である。そのために、学校実習校の状況を的確に把握し、適切な指導をどのように実践していくか見通しを持ち、高い指導力を発揮した実践ができるようになることである。 (現職教員学生)</p> <p>本授業においては、学校における課題の改善に向けた取組みを組織化し、それを定着するための実践的活動を行うことが主な内容である。学校課題の改善の組織化を図ることである。</p> <p>(霜川正幸, 和泉研二, 田邊敏明, 佐々木司, 鷹岡亮, 栗田克弘, 松岡敬興, 藤上真弓, 静屋智, 板垣育生, 池田廣司, 前田昌平, 岡崎智利, 前原隆志)</p>	共同 集中講義

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。